2017年10月27日

じゅんかん育ちツアー2017　in 十勝　報告書

GKP北海道

GKP北海道は、平成29年10月24日（火）、帯広市で「じゅんかん育ちツアー2017 in 十勝」（GKP北海道主催）を行いました。札幌市のGKP会員、さらに十勝管内では帯広市、十勝環境複合事務組合、音更町、幕別町から総勢40名を超える参加となりました。この活動により、帯広の下水道事業開始から続く下水汚泥の有効利用の現状と取り組みを学ぶことができ、また今後の下水汚泥利用について考える機会となりました。

午前は、帯広市都市農村交流センター「サラダ館」において座学を行いました。十勝環境複合事務組合の原副組合長の開会挨拶からはじまり、GKP北海道による「GKPとは？」「北海道の下水汚泥の緑農地利用とじゅんかん育ち」、帯広川下水終末処理場（帯広市の下水処理場）の安藤場長による「帯広市の汚泥肥料利用の経緯と現状」、（株）データベース帯広事務所の柴田副所長による「下水汚泥堆肥化の取り組みと利用状況について」、農家の立場から帯広市議会議員の横山建設文教委員長による「農業利用側の現状」を、それぞれ講演いただきました。その後の意見交換では、下記のような活発なご意見が出ました。

ランチには、十勝産じゅんかん育ち野菜を使った特別メニューをいただきました。

午後は下水汚泥の緑農地利用の理解を深めるために現地ツアーを開催、十勝川流域下水道浄化センターの乾燥汚泥を運搬して肥料にするための施設「岩内たい肥場」、八千代公共育成牧場、十勝川流域下水道浄化センターを視察しました。

【座学 意見交換】

・十勝における下水汚泥のたい肥利用は、水洗トイレと同じように既に使って当たり前となっている。家畜等もふくめ下水汚泥をたい肥として利用していることに関しての違和感がなく、消費者に受け入れていただいている。

・安全性の確保が必要であることから、地域住民、行政、農家とのコミュニケーションの活性化および情報公開が重要ではないかと感じた（十勝環境複合事務組合では、モニタリングを丁寧に継続的に行っている）。

・「風評被害」「悪評」について。悪評を出さないためには、下水汚泥から作る肥料の安全性を継続的にモニタリングし、情報公開を行うことが重要である。

・「臭気」について。洗濯物が外に干せないなど、においの問題がある。佐賀県ではもみがらを活用した脱臭処理を行っているようだが、十勝においても地産の廃棄物・資源を用いた効果的な臭気対策を行うとよい。

・（農業サイドからの意見として）堆肥の利用を広めていくためにも、各関係者からの情報収集、知恵を集めながら連携してやっていきたい。

・提案として「下水汚泥」ではイメージが良くないため、イメージの良い名前を考えてほしい。

サラダ館　座学、ランチ会場

会場受付：アスパラマンとスイスイちゃん

開会挨拶　十勝環境複合事務組合 原副組合長

座学司会　GKP 北海道（石川）

「GKP とは？」「北海道の下水汚泥の緑農地利用とじゅんかん育ち」　GKP 北海道（原田）

「帯広市の汚泥肥料利用の経緯と現状」安藤場長

「下水汚泥堆肥化の取り組みと利用状況について」柴田副所長

「農業利用側の現状」　横山建設文教委員長

座学に聞き入る参加者

意見交換会　パネラー

原田、横山、安藤、柴田（敬称略）

ご意見

意見交換会のようす（安藤場長）

意見交換会のようす（農業サイドからのご意見）

ランチのようす（十勝地域のじゅんかん育ち野菜を使った様々なメニューに参加者は舌鼓をうちました）

サラダ館　農場視察

岩内たい肥盤視察

八千代牧場

十勝川浄化センター（乾燥棟）

サンプル（脱水汚泥）

サンプル（乾燥汚泥）

以上